

2025 年度

事業計画及び収支予算

自 2025 年 4月 1日
至 2026 年 3月31日



一般社団法人

組込みシステム技術協会

Japan Embedded Systems Technology Association

2025 年度事業計画及び収支予算目次

I	総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	事業本部計画・・・・・・・・・・・・・・・・	3
III	支部活動計画・・・・・・・・・・・・・・・・	29
IV	収支予算・・・・・・・・・・・・・・・・	35

2025 年度事業計画

I 総括

2025 年度から第 2 中期計画（2025 年度 3 ヶ年計画）が始まります。

第 1 中期計画（2022 年度 3 ヶ年計画）は施策 1～6 で構成されており、速報では重点実施項目はおおむね達成された評価になっています。しかしながらすべてが達成されたわけではなく、積み残しと課題が残っているのも事実です。

第 2 中期計画では、先ず、第 1 中期計画を踏襲し、積み残しと課題を解決していきます。

次に、生成 AI の活用も必須になりつつあり、組込みの開発ではクラウド連携が進み、ソフトウェアデファインドが当たり前になってきた流れを受けて、組込み業界として進むべき方向を新たに考えることが必要な時期に来ていることから、業界団体としての役割を再定義して業界をリードするためにどうあるべきかを検討いたします。

そのために「JASA 改革プロジェクト」を発足させ、2025 年度 1 年間で確実に成果を出せるように予算も確保いたしました。

業界団体としてさらに 1 段上を目指してまいります。

EdgeTech+2024 展（横浜）では 32,427 名の来場者となり昨年並みでした。出展社数ではまだコロナ前の 2019 年度に至っておりませんが、売上は昨年度比で 115%となり順調に推移しています。オートモーティブソフトウェアエキスポ及び AI/生成 AI 分野では、そうそうたるアドバイザーボードのメンバーのおかげをもちましてセミナー協賛や出展社を増やすことができました。2025 年度もさらに伸ばせるように、2024 年度の課題、問題点を改善して取り組むように計画しています。

2025 年度は第 2 中期計画の骨子となる、業界団体としてどうあるべきかを検討し計画し実施していく初年度として大事な年となります。

2025 年度の事業計画のもととなる重点項目は以下の通りである。

2025 年度重点事業項目

- ①業界のトレンドをリードし、ビジネス交流の場である展示会事業を時代にマッチさせ発展させる
- ②先行技術の研鑽と企業の垣根を超えた場の提供及び成果物の共有化
- ③経営者の意識を変える研修、人脈形成の場の提供
- ④業界の認知度向上と人材採用活動の推進
- ⑤グローバルを視野に入れた事業形成と対応できる人材育成
- ⑥2030 年に向けて会員企業から求められる人材育成の追求
- ⑦地域活性化を実現する取り組み

事業推進本部

- ①会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場の提供と経営者支援の強化
- ②ビジネスマッチングの手掛かりになる業界マップの作製
- ③JASA ホームページの改善と情報発信力強化
- ④官、国内外企業、学生に対する JASA ブランド・ロイヤリティの向上

交流推進本部

- ①国際化対応の支援
- ②各支部、地域団体との連携によるビジネスマッチングの場の提供
- ③新規会員獲得の推進
- ④学生の業界認知度の向上
- ⑤各本部イベントとの連携した新卒採用推進

人材育成事業本部

- ①ETEC コンテンツの技術進化に合わせた整備ならびに普及啓発の強化
 - ・提携団体との連携による事業推進
- ②教育研修コンテンツの整備ならびに事業化推進
 - ・外部団体との連携および情報発信の強化
- ③外国人材教育研修事業のノウハウ蓄積と運用強化
 - ・会員ニーズ探索とマッチング支援

技術本部

- ①機能安全とセキュリティ技術の追求及び安全仕様の手順化
- ②サプライチェーンでのセキュリティ委託事業の計画と実施
- ③組込みプラットフォームの構築
- ④モデリング技術の活用推進など先端研究レベルの成果追求
- ⑤AI 活用技術の推進
- ⑥実用 IoT と CPS を実現するエッジコンピューティング技術の推進
- ⑦RISC-V などオープンな技術の発展、振興に貢献

ET 事業本部

- ①満足度向上： 既存出展社の継続と新規出展社の獲得
- ②認知度向上： 新規来場者の取り込み
- ③業界団体ならではの最新技術や企画、応用分野の取り込み
- ④JASA および JASA 会員の事業および技術力の訴求
- ⑤ビジネス機会創出のための出展社支援強化

支部

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発
- ②Web 会議、Webinar を活用した、支部内にとどまらず、全国レベルでの情報発信
- ③支部の特性を生かした事業を推進し、会員相互の親交の場を提供
- ④該当地域における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化を推進

Ⅱ 事業本部計画

事業推進本部

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

『JASA ビジョン 2030』と3 年計画の推進と、次期3 年計画の立案

- ① 3 年計画の推進状況把握と、次期3 年計画の立案
- ② JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供(経営者交流委員会)
- ③ 広報活動の活性化(カオスマップ、JASA ホームページ、BulletinJASA、JASA パンフレット)
- ④ 官、国内外企業、学生、他協会に対する JASA ブランド・ロイヤリティの向上

2. 達成目標(完了条件)

『JASA ビジョン 2030』と3 年計画の推進と、次期3 年計画の立案

- ① 3 年計画の推進状況把握と、次期3 年計画の立案
⇒2022 年3 年計画の実施状況把握と課題の明確化
⇒2025 年3 年計画の立案
- ② JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供(経営者交流委員会)
⇒「経営者サミット委員会」参加企業の倍増
- ③ 広報活動の活性化(カオスマップ、JASA ホームページ、Bulletin JASA、JASA パンフレット)
⇒効率よい情報の発信力強化
- ④ 官、国内外企業、学生、他協会に対する JASA ブランド・ロイヤリティの向上
⇒経産省をはじめとする官庁、地方自事体、他協会との連携を推進する

3. 1 年目の目標

2022 年度3 年計画の最終年としてのまとめ

経営者交流委員会設立

JASA ホームページ、BJ の有効活用

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】定例会議(委員会、WG会議)

2023 年3 年計画の推進

四半期ごとに WEB 会議を実施

半期ごとにリアル会議を実施

【事業No.2】支部訪問

本部と支部の連携強化、情報共有

各支部に1 回訪問し、支部の課題、本部の情報提供を実施する

➡ JASA 改革プロジェクトにて実施予定

【事業No.3】他協会との情報交換

CIAJ などの他協会との情報交換により、より広い人脈、ビジネスチャンスを増やす

CIAJ、NICT、AISOL、都産技研、産総研などとの情報交換の場を作る

広報委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

- ・JASA ホームページを情報ハブとして、技術本部や EdgeTech+などの協会活動をメリハリを付けて取り上げるとともに、情報をアップデートし情報発信力を強化する
- ・情報ニーズの高い技術本部を紹介するパンフレットを作成。企業や大学の新規入会のツールとして活用
- ・機関誌 BuletinJASA の内容を拡充するとともに、配布数を拡大する

- ・会員企業間や非会員企業とのマッチング、会員企業の広報に活用する会員情報管理システムの第3期開発を終える
- ・BulletinJASAを中心にJASA40周年に向けて準備する

2. 達成目標(完了条件)

- ・会員企業間および非会員企業とのマッチング、会員企業の広報に活用する会員情報管理システム(開発第3期)
- ・Bulletin JASAは4月号(技術特集)、7月号(技術本部発表会/EdgeTech+West)、10月号(EdgeTech+)、1月号(景況予測)の4回発刊
- ・JASA ホームページの拡充に寄与する新規コンテンツを立ち上げる(会員情報管理システムとの連携を視野)。
- ・関東圏以外の会員企業や大学をBulletinJASAで取り上げ、新規会員企業獲得の支援
- ・Bulletin JASAの読者ニーズ調査を行いコラムとコンテンツを見直し、部数拡大とJASAの認知度向上、新規会員の獲得につなげる
- ・事業本部や支部、委員会/WGが予算作成時に作成した今期目標を活用し、JASA ホームページの情報をアップデートする

3.1 年目の目標

- ・会員企業間と非会員企業とのマッチングに活用する会員情報管理システム(開発第3期)の完遂
- ・BulletinJASAのコンテンツ見直し。大学と技術本部(委員会/WG)への取材を拡充
- ・人材交流委員会と連携し大学関連の情報発信を強化
- ・JASA40周年に向け、功労者の方々の寄稿やインタビューをBulletinJASAに連載する
- ・会員ビジネス情報メールや公的機関(経産省、IPAなど)、業界団体(CIAJなど)からの情報の紹介チャンネルを設ける
- ・新規に会員となった企業や古くからの会員企業を積極的にBulletinJASAに掲載
- ・EdgeTech+でのポップや購読意向調査、購読申し込みページへの動線強化でBulletinJASAの配布部数の拡大
- ・BulletinJASAの読者調査(読者属性、閲読記事、役立った記事など)を行い、コンテンツの拡充と新規読者獲得につなげる

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

BulletinJASAとホームページの編集会議、広報戦略のすり合わせと実行計画策定
1時間/1回/月をメドに、オンラインとリアルハイブリッド開催

【事業No.2】会員情報管理システム(第3期:JASAビジョン施策5)

会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に資する。
JASAビジョンの施策5に該当
JASA会員の事業分野や新製品、ニュースなどの情報を集約し、会員企業間および非会員企業とのマッチング、カオスマップ作成、会員企業の広報に活用する新たな会員情報管理システム。2024年度に積み残した開発を完遂

【事業No.3】協会広報(ホームページ)

JASAの情報ハブとして、JASAの活動を潜在的会員やステークホルダーに効果的にアピールする
JASAホームページをJASAの活動状況を集約する情報ハブとして利用する。EdgeTech+、イノチャレ、ロボコン、プラグフェスト、技術本部の活動をタイムリーに伝える窓口とする。各活動への動線とするとともに、各活動からの受け口を用意し新規会員獲得を図る

【事業No.4】協会広報(BulletinJASA)

協会活動のJASA内外への周知

機関紙「BulletinJASA」の発行。発行時期は4月、7月、10月、1月。JASAの活動をステークホルダーに伝える広報的な役割を果たす。特に今年度は地方の会員企業や大学(EdgeTech+出展)の紹介に力を入れ、地方における協会の活動を支援する。Amazonギフトを使った読者調査を年4回実施。読者属性、閲読記事、役立った記事などを行い、コンテンツの拡充と新規読者獲得につなげる

【事業No.5】協会広報(協会案内)

技術本部を紹介するパンフレットの制作

JASAの活動の中でも特に情報ニーズが強い技術本部の活動を紹介するパンフレットを新規に作成し、新規会員企業の獲得や委員会/WGへの新規参加を支援する

政策提案委員会

1. 活動概要(2025年度の事業方針)

- ①政府(経産省)施策との情報交換会の実施
- ②IPAとの情報交換会の実施
- ③支部との連携による地方経産局等との連携推進

2. 達成目標(完了条件)

- ①年4回程度の情報交換会を実施する
- ②年1回程度の情報交換を実施する
- ③地方からの声を収集する

3.1 年目の目標

経産省との連携会議が実施できること
IPAとの連携会議が実施できること
経産省、地方との情報共有

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

政策提案委員定例会(4回)

JASAとして、官への提言等を議論する

【事業No.2】経済産業省定例会

経産省との情報交換(予算決定時期、中間、来年度予算時期)

行政の施策と連携した施策を立てるために、情報交換を3回定期的に行う

【事業No.3】IPA情報交換会

IPAとくに社会基盤センターとの連携を密にする

セキュリティ、アーキテクチャ関連のIPAの動きに関連して情報交換を実施する

経営者サミット委員会

1. 活動概要(2025年度の事業方針)

- ①『JASAビジョン2030』と3ヵ年計画の推進と、次期3ヵ年計画の立案
- ②JASA会員企業の経営者にとって必要とされる知識、人脈、協創の場を提供(経営者交流委員会)

2. 達成目標(完了条件)

- ①『JASAビジョン2030』と3ヵ年計画の推進と、次期3ヵ年計画の立案
- ②トップリーダー倶楽部の運営を委員会化「経営者サミット委員会」

3.1 年目の目標

DX 支援(経営者向けプログラム)WG の設立

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

【事業No.2】計画なし

【事業No.3】トップリーダー倶楽部運営会議➡ 経営者サミット委員会として運営計画

経営者支援の施策 4 の JASA 会員企業の経営者にとって必要とされる

①知識 ②人脈 ③協創 の場を提供する。

経営者支援の施策 4 のイベントとして、事業継承に関する講演会を企画実施し、懇親会を実施する

毎月会議開催 トップリーダー倶楽部は 2 回実施

交流推進本部

国際交流委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

1. 委員会の定期開催

活動検討、状況確認、情報収集(外部講師によるスピーチ)

2 ヶ月毎に委員会を開催し、委員会としての課題を探るため、識者に依頼して「委員会スピーチ」の機会を設ける

2. 海外人材採用セミナー(2 回実施: 7 月/1 月(ハイブリッド))

人材交流委員会や支部例会等と共同企画も検討

AOTS や会員企業の協力体制を取り付け、スリランカ+α で検討予定

3. JASA グローバルフォーラム&国際交流委員会の情報発信

※グローバルフォーラムは 2024 年度(インド)と同様、対象国(地域)を選定してセミナー等実施

現時点で候補地は未定で審議中

ET展 : JASA グローバルフォーラム企画・実施、JASA ブースにて委員会活動情報の発信

機関紙 : BulletinJASA に「国際だより」を設け委員会より情報発信

HP : 国際フォーラムや委員会スピーチでの講演資料を掲載

4. 海外視察による海外動向の情報入手

現時点で海外視察研修(候補地: 未定)を予定だが、審議中

募集人数は JASA 会員様 20 名ほどを想定

2. 達成目標(完了条件)

1. 2 ヶ月毎の委員会実施

2. 2 回のセミナー実施

3. グローバルフォーラムの実施

4. 海外視察の実施

3. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業の検討・計画・推進ならびに委員間の情報交換を行う

2ヶ月毎に委員会を開催し、委員会としての課題を探るため、識者に依頼して、「委員会スピーチ」の機会を設ける。

【事業No.2】海外人財採用セミナー

JASA 会員にグローバル人財を紹介・供給
海外人財採用セミナー(2回実施: 7月/1月(ハイブリッド))を実施する。

【事業No.3】「JASA グローバルフォーラム」「国際委員会の情報発信」企画・開催

JASA 会員をはじめとした企業に対し、海外の動向及び、国際化推進に向けた情報発信。
ET2025 を利用し、ハイブリッドセミナー「JASA グローバルフォーラム」を企画・開催する。
JASA 配信エリアを活用し、国際委員会の活動を ET 期間中ビデオ上映などで情報発信する予定。

【事業No.4】海外視察の企画・実施

グローバル化の推進
リアル視察により海外のビジネス状況状況を把握する (JASA 会員様 20 社程度の参加目標)。
具体的には、現地の各種団体・JETRO 現地事務所・JICA・大学訪問・企業訪問。
予算は懇親・現地での移動(バス)・現地ガイド・コーディネーター・に充てる。
(渡航滞在費は参加企業負担)。

ビジネス交流委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

各地支部と連携した情報発信
JASA 認知度の向上
企業間のビジネスマッチングや事業創造の機会を創出
新規会員獲得の推進
2030 ビジョン達成のため、従来セミナーの支部への引継ぎ

2. 達成目標(完了条件)

「各地支部と連携した情報発信」「JASA 認知度向上」
北海道支部・東北支部・北陸支部・九州支部と企画・運営で連携し、地域の需要に沿ったセミナーを開催する。

「企業間のビジネスマッチングや事業創造の機会を創出」「新規会員獲得の推進」
ネットワーキングパーティーの実施。他団体との協力強化。オンライン時は、オンライン名刺交換機能を活用する。

「JASA 認知度向上」「新規会員獲得の推進」
従来のセミナーだけでなく、地方他団体、官公庁主催セミナーへの講師派遣により、JASA プレゼンスを高める。

「2030 ビジョン達成のため、従来セミナーの支部への引継ぎ」(支部の協力が必要)
各支部主体で、セミナーを開催できるようにする。

3. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

原則、毎月 1 回開催

【事業No.2】北海道協業セミナー

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プレゼンス向上、会員獲得

交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、北海道支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、会員間あるいは会員外とのビジネスの創出、JASA会員獲得を狙う。

【事業No.3】東北協業セミナー

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プレゼンス向上、会員獲得

交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、東北支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、会員間あるいは会員外とのビジネスの創出、JASA会員獲得を狙う。

前年度に引き続き、盛岡県との共催を前提に進めて行く

【事業No.4】北陸協業セミナー

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プレゼンス向上、会員獲得

支部消滅により活動終了。

【事業No.5】九州協業セミナー

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プレゼンス向上、会員獲得

交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA会員獲得を狙う。

モノづくりフェアに JASA ブース出展として出展する場合は九州支部で行う。

【事業No.6】中国協業セミナー

地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プレゼンス向上、会員獲得、本地域は支部のないエリアのため支部化を目指す。

支部の立上りが具体的になるまで中断

【事業No.7】東北交流セミナー(仙台開催)

各支部、地域団体との連携による情報発信とビジネスマッチングの場の提供、JASA プレゼンス向上、会員獲得

交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、東北支部企画セミナーの3本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、会員間あるいは会員外とのビジネスの創出、JASA会員獲得を狙う。

東北地区の新たな会員開拓のため、本年度は仙台開催する。

人財交流委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

会員の新卒求人活動支援

学生の業界認知度の向上

会員の管理者・幹部候補育成支援と人財交流

2. 達成目標(完了条件)

①会員の新卒求人活動支援

会員企業と学生のマッチングイベントである業界研究セミナーと交流祭典を通じた学生・学校関係者との関係構築

②学生の業界認知度の向上

組込みシステム業界を説明、紹介する機会となるイベント、説明会の開催

③会員の管理者・幹部候補育成支援と人財交流

リアル・オンラインを併用した JASA 会員および外部参加の人財育成および交流支援

3. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

期初めの目標、実施項目の確認
各委員会の実施項目、施策、連携に関する情報交換

【事業No.2】《管理者・幹部候補育成》

会員企業・外部の管理者、幹部候補者育成を支援し交流を促進する
会員企業・外部の管理者、幹部候補者育成のため外部から講師を招聘し、グループワーク形式のセミナーをリアル・オンラインを含めて年 4 回と成果確認会、最終成果発表会を行う。参加者は全国より募集し、会員間・外部の交流促進も目的とする

【事業No.3】《新卒求人活動支援》関東

学生に業界ならびに協会を PR し、会員企業との交流を図る。
関東圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。
その際、会員企業と学生の交流も図る。また学校関係者との継続的な関係構築を図る

【事業No.4】《新卒求人活動支援》近畿

学生に業界ならびに協会を PR し、会員企業との交流を図る。
近畿圏の学生を中心に、業界・協会の認知を広げる機会を設ける。
その際、会員企業と学生の交流も図る。また学校関係者との継続的な関係構築を図る

【事業No.5】《新卒求人活動支援》業界研究セミナー

全国の就活生・就活準備層に対して、組込みシステム開発業の認知と、就活の動機付けを行うとともに、会員企業の求人市場のアピールの場とする
オンラインでの業界研究に関するセミナーを行う。
組込みサービス業の PR と地域ごとに会員企業の会社紹介、求人情報をアピールする。また、学校関係者との継続的な関係構築を図る。

【事業No.6】《新卒求人活動支援》求人情報揭示

電子媒体を活用して、会員の求人情報をアピールする。
会員の求人情報を収集し、JASA ホームページに掲載する。
SNS(Facebook, Twitter 等)で情報露出する。

【事業No.7】《学生の業界認知度向上》業界情報発信

学校法人に組込みシステム開発業界の情報を提供する。
機関誌『BulletinJASA』(年 4 回)を学校法人に発信する。
* 発送に伴う経費は広報委員会で計上予定。

【事業No.8】《学生の業界認知度向上》学校教育参画・支援

学校教育の実態を調査し、可能な範囲で教育に参画する。
① (初等教育) プログラミング基礎教育の実態把握
② (高等教育) 実践教育カリキュラム策定・検証に参画

人材育成事業本部

ETEC 事業推進委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

業界団体としての、あるべき人材育成事業の追求
ETEC 試験の品質管理
ETEC 試験の普及活動(認知度向上・利用拡大)
学習コンテンツ開発

2. 達成目標(完了条件)

ETEC 試験の品質管理
試験問題の更新

ETEC 試験の普及活動(認知度向上)

会員紹介キャンペーン:会員に非会員企業をご紹介いただき、一定期間のみ会員料金を適用する。

学習コンテンツ開発

ETEC クラス 1 受験者層向け独習コンテンツ販売開始

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

委員会運営

・委員会(試験運用運営状況の把握、マーケティング、プロモーション) 四半期ごと年 4 回程度

【事業No.2】《試験運用》ETEC クラス 1

ETEC クラス 1 (ks-100) の運営収支

収入:受験料

支出:試験配信手数料、データ抽出・管理、証明カード発行・郵送

【事業No.3】《試験運用》ETEC クラス 2

ETEC クラス 2 (ks-200) の運営収支

収入:受験料

支出:試験配信手数料、データ抽出・管理、証明カード発行・郵送

【事業No.4】ツール類作成

ETEC 周辺のツール作成

・証明書/証明カード発行・発送に伴うツール(専用封筒、クリアファイル等)

【事業No.5】試験版改定

4 年ごと試験版を改定する

過去の受験結果を元に、試験品質を分析し、

・試験問題の再校正

・新問題の組込み

・受験結果の評価の標準化

【事業No.6】認知拡大

ETEC 試験体験を提供し、評価やレベルを体感させる。

○紹介キャンペーン

会員より組込開発企業(非会員)を紹介いただき、一定期間会員料金を適用

○学校(教員)向けに DM

教育研修コンテンツ事業推進委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

人材育成/人材開発事業強化
教育コンテンツの整備
会員参加し易い有料セミナーの拡充
会員企業における人材育成課題のヒアリング
Linux Foundation との連携・講座開発

2. 達成目標(完了条件)

2024 年度に会員企業にヒアリングした結果および 2024 年度実施済人気高講座を中心に、セミナー実施する。
有料セミナー:新規 4 件、前年度以前動画オンデマンド 8 件
JASA セミナーの告知およびセミナー参加への誘導を目指して、EdgeTech+にて委員メインによるパネルディスカッションを実施する。

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業推進のための、相談・報告・運営会議
各事業の進捗はデータ共有し、会議の場で運営の相談をする。
隔月開催を予定(必要に応じて随時開催)。

【事業No.2】有料セミナー運営システム

受講料の課金システムを備えた Webinar プラットフォーム“EventHub”の継続利用
EventHub の利用についての本部管理として未計上

【事業No.3】人材育成

組込みシステム開発従事者に資する、スキルアップ研修
○ 生成 AI 活用
○ Edge AI 開発
○ハードウェア関連講座
○ Linux Foundation 連携講座
他 前年度までの講座動画オンデマンド 8 件

【事業No.4】人材開発

経営層・管理者層から現場スタッフに対する、会社人としての知識・行動に関する研修
○実施未定 等

【事業No.5】調査

会員企業への個別ヒアリングを実施し、2026 年度以降の講座開発に向けた人材育成課題の把握。
○調査項目、ヒアリング項目の選定
○個別ヒアリング実施
○他

外国人技術者教育研修 WG

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

- ①人材不足対策として外国人エンジニアの確保支援
- ②外国人エンジニア採用におけるノウハウの獲得
- ③外国人エンジニアが日本で働きやすい環境づくり

2. 達成目標(完了条件)

- ①スリランカを対象に寄付講座の実施
- ②外国人エンジニア採用国の調査
- ③寄付講座コンテンツ製作・整備

3.1 年目の目標

2023 年度の 8 名のインターンシップの実績をベースに、15 名以上のインターンシップを受け入れる
インターンシップで受け入れた人材の就職支援

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】グローバル人材の採用支援

スリランカの大学との寄付講座推進、及びグローバル人材採用支援
約 4 名以上のインターンシップの受入れを推進、及びグローバル人材採用支援

【事業No.2】留学生インターンシップ開拓検討

国内大学の留学生インターンシップの開拓
日本の大学の外国人留学生インターンシップの開拓検討(5 大学で調査)

ET 技術者教育委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

JASA 各支部との連携に基づく ET ロボコン地区大会認知度向上、参加チーム拡大

2. 達成目標(完了条件)

3.1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】ET ロボコン認知度向上

JASA 各支部との連携による ET ロボコン認知度向上
各地区・支部の大学・ET ロボコン・産学官連携の場に出向き、ET ロボコンと技術人材育成への活用事例を紹介する。
訪問先案としては、九州地区、沖縄地区、東北地区、北海道地区を想定。

【事業No.2】ET ロボコン

複雑化する組込み開発の人材育成を目的としたコンテストの企画および運営全般
全国地区大会及びチャンピオンシップ大会における競技会と付随する技術教育・モデリングワークショップなどの実施・運営

JASA イノベーションチャレンジ実行委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

仮説検証ブートキャンプは、VUCA ワールドと呼ばれる現代の不確実性の増す状況において、予測不能な課題に対し、着実に前進するための「仮説検証」スキルを身に着ける機会を提供します。

2. 達成目標(完了条件)

3.1 年目の目標

参加人数:80 名(2025 年度)

スポンサー企業:3 社

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

ボランティアベースの活動であり、推進側のモチベーションアップのためにも、定期的なタイミングで交流を深める機会を創出する。

会議の後の懇親会を実施。参加者は実行委員 4 名程度を想定。

【事業No.2】デジタル人材 イノベーションチャレンジ

「仮説検証ブートキャンプ」は、社員が日々の業務で直面する予測不能な課題に対して、仮説検証を繰り返すことで着実に前進し、柔軟かつ効果的に対応できるようになるための必須スキルを提供します。このトレーニングを受けることで、社員は不確実性が高い状況でも、迅速かつ的確な行動を取り、企業の成長に貢献することができます。

仮説検証の知識習得(オンライン:0.5 日間)

実践形式フィールドワーク(リアル:3.0 日間)

企画プレゼンテーション(リアル:1.0 日間)

技術本部

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

会議(委員会、WG会議)、成果発表会、技術本部セミナー(EdgeTech+West2025)、技術本部セミナー(EdgeTech+2025)、技術本部・各委員会の成果を発表する

2. 達成目標(完了条件)

会議の実施、成果発表会の開催、EdgeTech+West での技術本部セミナーの実施、EdgeTech+2025 での技術本部セミナーの実施、EdgeTech+での技術本部・各委員会の成果の展示を実施する

3. 1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

技術本部の活動を総括するため、本部会議を実施する。

四半期毎に 1 回

【事業No.2】技術本部成果発表会

各委員会の前年度の活動成果を、会員や一般向けに発表する。

今年度はリアルにて実施

【事業No.3】技術本部セミナー(EdgeTech+West)

EdgeTech+West 開催の機会を利用して、技術本部各委員会の中間成果を中心にセミナーを実施する

【事業No.4】技術本部セミナー(EdgeTech+)

EdgeTech+ JASA 技術本部セミナーを開催。

技術本部・各委員会の成果を発表する。

【事業No.5】技術本部・各委員会の成果を発表する

EdgeTech+ JASA ブースにおいて、PR 活動を行う。

主に JASA 会員に対する AI 技術振興を行う。

スタートアップの先端技術の情報を JASA 会員で共有できるように支援する

安全性向上委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針・事業予算案)

- (1) AI や IoT(含むセキュリティ)に代表される複雑システムの機能安全の課題や国際規格に関しての調査・研究を行う。
成果は積極的に情報発信していく。
- (2) STAMP モデルをコア技術とした安全設計や事故分析の事例を蓄積し、技術者の啓発活動に役立てる。
- (3) 安全設計にかかわる仕様書において、その論理性や非機能要件の明示化にかかわる問題点を整理して改善のための議論をする。
- (4) 上記で得た知見を整理し、セミナーなどでの啓発活動を行う。加えて、有識者に指導をいただき、さらに知見を高める。そのためにも、大学、研究機構、IPAなど外部組織・団体との技術交流、連携を積極的に推進する。

2. 達成目標(完了条件)

1. 複雑システムの安全設計に関する調査研究、及び普及啓発を行う。
 1. 安全設計の調査研究。
 2. 安全設計セミナーの開催。
 3. 当委員会への加入への契機づくり。
2. あらためて STAMP にフォーカスし、同時に広く「安全」に関する発信をし、JASA の社会的プレゼンスを得る。
 1. 当委員会の成果ないし有効な議論を積極的にホームページに公開し、当委員会への関心を高める。
 2. STAMP-WS、安全関連学会、シンポジウムへの投稿、発表、参加。
 3. 「安全」に関連する学会、組織との連携を高める。
3. 広く「安全」を議論する場を設け、社会的信頼を獲得する。
 1. 委員会の定例会にて、広く「安全」に関する話題を交換し、課題を探る。
 2. AI、生成AIに関する安全の研究、また国際規格 ISO/PAS 8800 のAIの調査・研究を行う。
 3. STAMP実地検証調査。

3. 1 年目の目標

1. 通常的安全設計の課題に加え、AIと「安全」に関する調査研究を、国際規格の観点から調査研究を行う。
2. 当委員会の社会的プレゼンス向上のために、「安全」に関連する機関の有無、役割を調査する。
3. 広く「安全」に関する課題を調査研究する。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

年度計画の策定、推進、状況確認。対外組織との連携を企画する。

- ・定例会(月一回)を開催し、各WGの活動報告から情報共有、意見交換を行い、「安全性」に関する見識や技術力の向上を図る。
- ・国内外の機関の技術動向ウォッチ、相互紹介を進めビジネス機会の提供を図る。
- ・STAMP/STPA/CAST に関わる情報収集を行う。
- ・セキュリティ委員会との連携によるセキュリティと安全性の融合に関わる情報収集を行う。
- ・会合は原則、委員会と一体で進めるが、議案は各WGで独立に行う。

【事業No.2】「つながる社会での機能安全」WG

つながる社会での機能安全の課題検討、特に AI・IoT(含むセキュリティ)がかかわる複雑システムの安全にかかわる課題を検討する。

- ・AI/IoTエッジの安全について理解を深める。
- ・Safety&Security(S&S)の考え方をまとめ、外部に発信する。

- STAMP/STPA/CAST にかかわる事例を集め、つながる社会での機能安全に役立つ考え方としてまとめる
- 研究の企画、セキュリティ委員会などとの合同研究会の交渉(10 月前後)

【事業No.3】安全仕様化WG

安全性に関わる設計の課題検討、特に上流工程の課題を検討する。

- Safety & Security(S&S)の考え方をまとめ、外部に発信する。
- 安全に関わる要求を仕様化するプロセスを研究し、プロセスモデル又は手法を提案する。
啓発・学術活動として、セミナー講師の派遣、学会や技術誌への投稿を行う。
- 安全誘導型設計プロセスモデルを重点課題とし、自主的に活動し、相互啓発を図る。
- 手法として、意図・要求記述手法や、形式検証手法、安全解析手法に取り組む。
- AI/IoTエッジの安全について理解を深める。
- STAMP/STPA/CAST にかかわる事例を集め、つながる社会での機能安全に役立つ考え方としてまとめる

【事業No.4】STAMP 推進 WG

委員会活動の成果を発信し、社会啓発に資する。

- 機能安全を中心に安全技術／文化に関する調査活動を行う。
- 外部との交流の中からオープンイノベーションの機会を増やしていく。

【事業No.4】安全設計セミナーWG

委員会活動の成果を発信し、安全技術の普及を行う。

- 安全設計セミナーの開催(JASA 内、企業出張)
- STAMP/STPAを中心に行う。
- 聴講者との交流も深める。
- 開催要領作成、開催支援は委員会と一体で進める。

組込みシステムセキュリティ委員会

1. 活動概要 (2025 年度の事業方針・事業予算案)

- 1.IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応認証事業の運営
- 2.JASA 版「組込みセキュリティ教材」の運営
- 3.組込み技術者向けのセキュリティスキルマップ作成、ガイドライン(書籍化)作成
- 4.サイバーセキュリティ国際規格の動向調査、セミナーコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)
- 5.委員会活動、JASA 内の WG、委員会との連携活動

2. 達成目標(完了条件)

方針 1, 2 については、24 年度に運営開始したコンテンツを広く業界に認知して頂き、拡販施策(セミナー等)を実施して、運営の拡販につなげる活動を実施する。JASA 各支部との連携を実施し、各コンテンツの認知度を向上する活動を実施する。

方針 3 については、サイバーセキュリティ対策やガイドラインが IT 機器向けが多いため、組込み機器開発に向けたセキュリティスキルの定義やガイドライン化が必要となっているため、書籍化を目指した活動を実施する。書籍化後、有償セミナーなどで収益化を実施する活動に繋げる。

方針 4 については、27 年に施行されるサイバーレジリエンス法など国際動向を把握しながら、JASA 会員企業に向けたサイバーセキュリティの動向を発信していき、有償セミナーに繋げる。

方針 5 については、都立産業技術センターとの共同セミナーの開催、セキュア IoT プラットフォーム協議会との共同セミナーの開催などの活動を通じながら、啓発活動を実施する。

EdgeTech+での講演による会員企業の知名度アップと中小企業向けの啓発活動を実施する。

委員会は、月 1 回の開催を実施する。JASA 内での他の委員会、WG とともにセキュリティ部分で連携を図る。

3.1 年目の目標

方針 1, 2 については、知名度アップ、拡販先の開拓を行い、運営拡大、収益の確保ができる活動を実施する。

方針 3 については、24 年度に輪講を行った Secure by design、Secure by default のガイドラインの輪講結果から、ETSS ベースでスキルマップを再定義し、組込み機器開発者に向けたガイドライン化を検討し、書籍化、有償セミナーに繋げる活動をする。

方針 4 については、サイバーセキュリティの動向を把握しながら、経済産業省、IPA などとの連携を図りながら、JASA 会員企業に向けた情報発信、有償セミナー活動を実施する。

方針 5 については、各団体との連携したセミナーを行いながら、サイバーセキュリティ対応の啓発活動を実施する。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】IoT セキュリティの国際安全基準適合の認証取得、対応認証事業の運営

セキュリティ国際規格の認定支援による収益化

組込み開発におけるセキュリティ国際規格の認定が必要な企業向けのコンサルティングビジネスの立ち上げによる収益化

【事業No.2】JASA 版「組込みセキュリティ教材」の運営

JASA としてのセキュリティ教育ビジネスの開発と有償セミナー開催による収益化

JASA 版「組込み技術者向けのセキュリティ教材」の開発と ETEC 試験制度の立ち上げによる収益化

【事業No.3】組込み技術者向けのセキュリティスキルマップ作成、ガイドライン(書籍化)作成

組込み機器開発者向けのサイバーセキュリティスキル定義、ガイドライン作成

サイバーセキュリティ対策やガイドラインが IT 機器向けが多いため、組込み機器開発に向けたセキュリティスキルの定義やガイドライン化が必要となっているため、書籍化を目指した活動を実施する。書籍化後、有償セミナーなどで収益化を実施する活動に繋げる。

【事業No.4】サイバーセキュリティ国際規格の動向調査、セミナーコンテンツ開発、コンテンツの配信(有償化)

サイバーセキュリティ国際規格のコンテンツ開発と有償セミナーによる収益化

25 年度以降の国際規格の動向を把握しながら、JASA 会員企業向けの情報発信、タイムリーな有償セミナー実施による収益化

【事業No.5】委員会活動、JASA 内の WG、委員会との連携活動

委員会活動、EdgeTech+での講演対応

委員会は、毎月 第 2 木曜日、通年 12 回を実施

EdgeTech+は、West、横浜での講演を実施

コモングラウンド委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

・JASA2024 年度重点項目である「⑥実用 IoT と CPS を実現するエッジコンピューティング技術の推進」を実行する。

デジタルツイン関連技術の調査研究

デジタルツイン関連技術の見識を深めるため、有識者を招いての勉強会や企業のサービス事例を題材とした「白熱教室」を実施。

各 WG 取りまとめ

①ドローン WG:ドローン WG 予算書参照。

②スマートライフ WG:スマートライフ WG 予算書参照。

JASA デジタルツインデモ環境構築

箱庭を活用したインフラ協調型ロボット制御のためのデジタルツイン環境を実ユースケースに適用するための技術検討を行う。

協創プロジェクトの立ち上げ

上記 JASA デジタルツインデモ環境を応用し、企業との協創プロジェクト立ち上げを実施する。

メンバー募集

コモングラウンド委員会の活動をセミナー、展示会を通じ、メンバーや活動団体を広く求める活動をする。

2. 達成目標(完了条件)

本委員会は、インフラ協調型ロボット制御のためのデジタルツイン環境を実現するための、技術調査、課題解決方法を検討する。

そして、実際に JASA デジタルツインデモ環境を作成して、検討内容を実証し、結果を広く周知する。

検討結果を活用し、会員企業はもとより業界団体と相互連携し、「共創によるビジネスの実現を図ること」を達成目標とする。

また、会員企業からの課題について、解決策を検討するとともに、企業、業界団体とのマッチングを実施する。

3. 1 年目の目標

情報発信活動の継続

(1)JASA HP での活動内容の掲示

(2) EdgeTech+展示会やセミナーでのデモ展示、講演、パネルディスカッションなどの実施。

(3) 業界団体との情報交換、有識者との勉強会の実施。

(4) JASA 会員企業を含めた、委員会活動メンバーの募集。

(5) JASA デジタルツインデモ環境の構築

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

活動計画、進捗状況の確認

- ・年 6 回程度の委員会開催
- ・有識者を招いた講演&勉強会
- ・各種業界団体との連携

【事業No.2】EdgeTech+West

委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。

- ・ブース展示:コモングラウンド委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
- ・セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.3】EdgeTech+

委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。

- ・ブース展示:コモングラウンド委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
- ・セミナー、パネルディスカッションの企画・実施

【事業No.4】福岡ものづくりフェア

委員会及び WG の活動を周知し、会員・活動メンバー、連携団体を募る。

- ・ブース展示:コモングラウンド委員会の紹介、パネル作成、資料配布など
- ・セミナー、パネルディスカッションの企画・実施
- ・JASA 九州支部との連携

【事業No.5】JASA デジタルツインデモ構築

箱庭を活用したインフラ協調型ロボット制御のためのデジタルツイン環境の構築

- ・インフラセンサーで取得した情報をバーチャルに反映させる技術の調査
- ・実ユースケースに適用するための技術検討
- ・デモ環境を利用した技術課題の解決策の検討、実験

【事業No.6】大阪万博

ドローン WG で出展する万博への協力

- ・箱庭 WG とドローン WG で連携した万博催事の出展協力

ドローン WG

1. 活動概要 (2025 年度の事業方針)

- (1) TOPPERS 箱庭 WG との連携研究、普及活動(立花エレテック様、日本航空電子様、NXP 様含めた研究)
- (2) 大阪万博での催事対応
- (3) ドローン関連団体、大学との連携活動
- (4) WG 活動

2. 達成目標 (完了条件)

方針 1 については、24 年度での活動を継続した対応を行いながら、箱庭ドローンシミュレータの利活用普及を行い、JASA での事業とできる活動を推進し、箱庭ドローンシミュレータを使った有償セミナー開催、イベント対応などで収益化ができる活動を実施する。

特に方針 2 にて 2025 年度 4 月から行われる大阪万博での催事を通じて、JASA 活動のアピール、箱庭ドローンシミュレータの利活用をアピールし、JASA での活動内容を利活用してもらえる事業者との活動に繋げる。

方針 1, 2 の活動を通じて、TOPPERS 箱庭WGとの共同研究においては、TOPPERS 側でのイベントやセミナー活動などの主催を JASA 側からサポートを行い、両団体での活動成果をアピールできるように推進する。

方針 3 については、24 年度に連携したドローン利活用プラットフォーム(NIRO)、大阪スマートシティ戦略室(OSPF)の活動に積極参加し、JASA でのドローンシミュレータ技術や、デジタルツイン技術、ロボット利活用の技術、AR 技術などのアピールを行い、JASA 活動内容を利活用してもらえる事業者との活動に繋げる。

ドローン関連団体との連携を更に広くしていきながら、JASA 活動内容を積極的にアピールしていく活動をして、地方自治体への貢献に繋げる。

金沢工業大学とは適時情報交換を行いながら、ドローンの普及や技術動向についての把握する活動を継続する。その他大学との連携も検討し、ドローンシミュレータの学術的な利用についての活動に繋げる。

方針 4 については、月 1 回ペースで活動しながら、NEDO などの国プロ動向の把握、ドローンにおける安全性の検証などの検討を実施する。

3. 1 年目の目標

方針 1, 2 については、24 年度までの活動を継続しながら、更に活動の幅を広げ、有償セミナー、イベントなどを実施し、収益化ができる活動に繋げる。

方針 3 については、ドローン関連団体との連携強化を図り、開拓できていないドローン利活用のユースケースを調査しながら、JASA 活動での内容を収益化できるような取組みに繋げる。

方針 4 については、月 1 回ペースで活動しながら、ドローンの利活用や安全性の検証などの方法をアピールしていく活動をする。

4. 各事業計画 (案)

【事業No.1】箱庭ドローンシミュレータ利活用普及活動

箱庭ドローンシミュレータ利活用普及活動(TOPPERS 箱庭 WG との共同研究)

箱庭ドローンシミュレータを使った勉強会を企画し、普及活動を実施する。これらの内容活動し、JASA 会員企業に箱庭を使ったシミュレーション応用を発進し、開発における効率化に利用してもらうように活動をする。

【事業No.2】大阪万博での催事対応

JASA 活動のアピール、箱庭ドローンシミュレータの利活用普及活動
大阪万博での催事を通じて、JASA 活動のアピール、箱庭ドローンシミュレータの利活用をアピールし、JASA での活動内容を利活用してもらえる事業者との活動に繋げる。

【事業No.3】ドローン関連団体、大学との連携活動

ドローンシミュレータの事業化、利活用普及活動

ドローン関連団体(NIRO、OSPF など)との連携を図り、ドローンシミュレータの事業化に向けた利活用普及活動に繋げる。学術的な利活用のため、大学などの機関との連携を図る。

【事業No.4】WG 活動

ドローン利活用の調査、ドローンシミュレータの普及活動を行う。

Edgetech+では、AR 技術のデモ実施や、講演活動を実施する。

スマートライフ WG

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

- ・人の感情(エモーション)や状態(バイタル)をセンシングし、IoT として応用する技術の調査・研究の実施。
- ・ifLink オープンコミュニティと連携し、IoT の普及を促進する。
- ・検討したソリューションについて、プロトタイプを作成し、サービスの有用性について実証実験を行う。
- ・展示会を通じ、スマートライフ WG の活動メンバーを増やす。
- ・様々な会社、団体と交流し、オープンイノベーションを推進していく。
- ・エモーションをメタバース上に反映(デジタルツイン)し、実現できるソリューションの検討。
- ・島根大学の研究室や、福祉施設と連携し、研究内容の実証実験を検討する。
- ・Matter を使用したスマートホーム規格の調査を行う。

2. 達成目標(完了条件)

プロトタイプ作成で得られた技術的な知見を成果としてまとめ情報展開を行う。(設計書、コード等)

展示会にて、セミナーを実施し、スマートライフ WG の活動成果を発表する。

様々な会社、団体(ifLink オープンコミュニティ等)との協力、連携、交流をし、JASA のプレセンスの向上を図る。

ソリューションのビジネス化に向けた検討を行う。

3. 1 年目の目標

センサ(エモーションセンシング等)の継続調査、研究。

ifLink に対応したエモーションセンシングプロトタイプ作成。

エモーションを活用したソリューションのビジネス化に向けた検討を行う。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

情報共有、メンバーとのディスカッション、プロトタイプ作成進捗報告

メンバーとのディスカッション、情報共有、プロトタイプの作成状況確認、デモ展示に向けた確認等

スマートライフに利用できる新規センサ(特にエモーションキャッチセンサ)の調査・研究

実証実験で得られた技術的な知見のまとめ。(勉強会、セミナー実施)

【事業No.2】プロトタイプ作成

スマートライフ WG で検討したアイデアの展示会に向けたプロトタイプ作成

スマートライフ WG で検討したアイデア実現のためのセンサー調査、プロトタイプ作成。

ifLink オープンコミュニティとの連携で、ifLink 対応のセンサー、アクチュエーターを動作させる。

【事業No.3】EdgeTech+West

スマートライフ WG の活動を外部に向け発信し、様々な会社、団体と交流し、仲間作り、人脈を形成する。

スマートライフ WG の活動内容を、パネル、動画展示を行い、セミナー発表を行う。

【事業No.4】EdgeTech+

スマートライフ WG の活動を外部に向け発信し、様々な会社、団体と交流し、仲間作り、人脈を形成する。

スマートライフ WG の活動内容を、パネル、動画展示を行い、セミナー発表を行う。

【事業No.5】実証実験、研究

スマートライフ WG の活動での成果を、ユーザー環境で試用し、ビジネス展開につなげる。

実験の対象として、島根大学の研究室との連携を検討する。

島根大学との打ち合わせ、福祉施設への訪問を検討する。

応用技術調査委員会

OSS 活用 WG

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

OSSC 共同セミナー、WG 会議、RISC-V エコシステム調査、LSI 開発 OSS 調査、OSS 普及セミナー、組込み OSS 鳥瞰図作成、OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査、広報資料作成、外部発表

2. 達成目標(完了条件)

OSS 普及セミナーの開催、ハンズオン実施。

WG 会議の開催。

RISC-V エコシステム調査報告書の作成。

LSI 開発 OSS 調査報告書の作成。

外部発表の実施。

OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査報告書の作成。

広報の資料作成。

3. 1 年目の目標

LSI 開発 OSS 調査を行う

ハンズオン開催は適宜行い、OSS 技術振興と会員の技術向上に貢献する

セミナー開催は適宜行い、技術振興と JASA の認知度向上に貢献する

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG 会議)

WG 活動のため

・隔月、年 6 回(都内、関西など)の開催

【事業No.2】LSI 開発 OSS 調査

LSI 開発用 OSS の利用を促進するため、OSS の一覧表をまとめ、それらの使用方法を調査する

LSI 開発用 OSS を使用して、中小企業でも完全オリジナル LSI の開発が可能になりつつある。それに関わる OSS の情報と使用方法をまとめる

【事業No.3】外部発表

WG の活動果を公表し、活動をアピールする

1. 技術本部成果発表会(5 月)

JASA 会員向け報告

2. EdgeTech+2025 技術本部セミナー(11 月) 一般向け啓発

【事業No.4】広報資料作成

WG の活動成果を公表し、WG の活動をアピールする。
フライヤ(チラシ)、ステッカ、印刷物などを作成

【事業No.5】RISC-V エコシステム調査

オープン・ソースな CPU RISC-V を取り巻く環境と OSS を調査する
RISC-V CPU を搭載したボードをもとに、CPU アーキテクチャ、開発環境を調査する。RISC-V のために活動している有識者、団体などと交流をはかり、RISC-V エコシステムの中での組込み団体の立ち位置を探る。開発環境 OSS、OSS な組込み用ブートローダなどの調査を行う

【事業No.6】OSS 普及セミナー

JASA 会員などへの OSS とオープン・ソース・ハードウェアの振興を諮る
座学とハンズオンを混合した形式で、組込み技術が身につくセミナーを実施。
本年度は、近畿地方で数回程度の連続実施を計画。

【事業No.7】OSS ドローンの運用も含めた諸事情の調査

OSS ドローンを飛行させるための、諸事情を調査する
ドローンは飛行させるために、飛行場所、操縦のための資格などが必要である。
また、OSS を使用したドローンを今後運用するために、必要となりそうな事柄を調査する

アジャイル研究 WG

1. 活動概要 (2025 年度の事業方針)

WG 会員の課題解決による技術及びマネジメント情報の共有と研究成果の情報発信
委員の知見を深めるためのセミナーを開催する。

2. 達成目標 (完了条件)

ET 展や技術本部成果発表会等での研究発表
委員の知見を深め、各社の業務に研究成果を反映頂く

3. 1 年目の目標

参加会員の課題や諸問題をアジャイル開発等の手法を活用し、解決し、その成果事例を ET 展で発表する。
外部講師による講演会や情報交換の場を会員に提供する。
参加会員の増強

4. 各事業計画 (案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

開発の課題をアジャイルなどの手法を導入して改善する研究会
平成 24 年度より始まったアジャイル研究会を続けて行う。
開発の課題解決にアジャイルなどの手法を適用して試行し、評価する。

【事業No.2】アジャイル勉強会(セミナー開催)

外部講師をお招きし、より広い知見を得る
上記 WG に合わせ、年に 2 回は外部講師をお招きし、セミナーを開催する。

AI 研究 WG

1. 活動概要 (2025 年度の事業方針)

研究定例会議(毎月)
勉強会(全 5 回(講義:4 回、発表:1 回))

2. 達成目標(完了条件)

- (1) エッジ AI が一般化するまで機械学習の最新技術の取り込みとコンペ参加で技術力を向上させ、エッジ機器への AI 実装を試す
- (2) Deep Learning を使用したデモ開発と参加企業上長向けの内部デモ発表

3.1 年目の目標

- 1) 興味のあるテーマを Why to make で繋がったグループで取り組み、結果を展示会などで発表
- 2) AI に興味のある技術者を対象に Deep Learning とは何かを理解し、製品に組み入れる技術者の育成。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

Deep Learning を既に理解し開発できる技術者とエッジ AI 活用研究
毎月、1 回 1 時間のオンライン WG を行なう。

【事業No.2】技術者育成

AI に興味のある技術者を対象に Deep Learning とは何かを理解し、製品に組み入れる技術者の育成年 5 回(ほぼ隔月)、1 回 3 時間のオンライン勉強会を行なう。

プラットフォーム構築委員会

OpenEL 活用 WG

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

OpenEL の普及・啓発を強化する

OpenEL の仕様を強化する

OpenEL の国際標準化の可能性を調査する

OpenEL を国際標準とするためには、優れた仕様だけでは不十分であり、多くのユーザーに使っていただく必要がある。そのためには、多くのユーザーが使用しているプラットフォームに対応するのが得策である。

よって、世界で広く利用されているプラットフォームやデバイスへの対応を行うとともに、一般向けの勉強会を開催する。

また、高度化する組み込みシステム開発において品質と効率を上げるモデルベース開発が求められており、上流から下流まで一気通貫して開発できることが重要である。そして、これを実現するためにも各レイヤーのツールベンダーを巻き込む必要がある。そして、各ツールで OpenEL をサポートすることにより、インターフェースが統一されるため、モデルからソースコードを自動生成し、さらに自動テストまで行うことが可能になる。ゆえに、OpenEL が組み込みシステム開発において上流から下流まで一気通貫したソリューションを提供する核となる。さらに、組み込みシステムセキュリティ委員会と連携し、セキュリティ対応を目的として仕様を強化する。

2. 達成目標(完了条件)

OpenEL の国内外における普及

OpenEL の仕様の強化

OpenEL の国際標準への提案

3.1 年目の目標

OpenEL の国内外における普及

OpenEL の仕様の強化

OpenEL の国際標準化の可能性の調査

OpenEL の国内外における普及のため、OpenEL 対応プラットフォームとデバイスを強化する。

経済産業省が国際標準化を進めている ISO/IEC 30161 Internet of Things(IoT) – Data exchange Platform for IoT services の Part 3: Architecture and interface for remote control systems の Interface 仕様として

OpenEL の国際標準化を進める。

仮想シミュレーション環境「箱庭」との連携を強化し、PC→シミュレーターの片方向だけではなく、シミュレーター→実機の双方向接続を実現する。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

OpenEL の仕様策定、普及・啓発およびその他の活動計画の立案、国際標準化の可能性の検討
組込みソフトウェア開発技術の調査、アクチュエーターやセンサーに関する技術の調査、講師を招いての勉強会の開催、OpenEL 仕様書の執筆、実装などの具体的な作業を行う。

【事業No.2】EdgeTech+West

OpenEL の普及・啓発活動

EdgeTech+West にて、OpenEL を用いた組込みソフトウェア開発手法の講演およびデモ展示を行う。

【事業No.3】EdgeTech+

OpenEL の普及・啓発活動

EdgeTech+にて、OpenEL を用いた組込みソフトウェア開発手法の講演およびデモ展示を行う。

組込み DevOps プラットフォーム WG

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

ステアリング会議

2. 達成目標(完了条件)

昨今、組込み業界の顧客層が大きく変化している。顧客と対話するためのツールが求められている。

組込み開発の開発手法も大きく変わりつつあり、既存ソフトウェアの活用が大変重要となっている。

組込み DevOps プラットフォームは、既存ソフトウェア、既存ハードウェア部品などを活用できる情報を開発企業に提供する。

DevOpsPF は、既存ソフトウェア、既存ハードウェアの情報を活用して、新しい層の顧客と対話するためのツールにもなる。

DevOpsPF の理想形、要件定義を行うことが、本 WG の目標である。

達成目標は、以下

- ・組込み DevOps プラットフォームの理想形の定義
- ・組込み DevOps プラットフォームの要件の定義

3.1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

DevOpsPF の理想形と要件定義を行う

理想形と要件定義を行うための、会議を行う

【事業No.2】プラットフォーム構築

DevOpsPF の構築を行う。

大学生に業務委託して DevOpsPF の構築を進める。

ハードウェア委員会

デバイス WG

1. 活動概要 (2025 年度の事業方針)

- (1) FPGA によるラダー、ROS(JASA 標準 IP の開発)
- (2) RISC-V 以外の新技術の習得
- (3) 新規参入の FPGA ベンダー(Effnix など)の評価ボードを利用して性能比較ならびに RISC-V の実装方法を確立する
- (4) 組込みハードウェアのノウハウ集

2. 達成目標 (完了条件)

ラダー、ROS 標準 IP の仕様策定
評価ボードへの RISC-V 導入手順書の作成
周辺回路の製作と RISC-V による動作検証実施

3. 1 年目の目標

ラダー、ROS の標準 IP 策定
周辺回路の製作

4. 各事業計画 (案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

WG 活動内容の報告、および技術セミナーなど
月 1 回の WG 開催
技術セミナー 2 回/年

【事業No.2】新 FPGA ボードの性能評価、ならびに FPGA 周辺回路の製作

RISC-V の普及活動のため
RISC-V を搭載可能な FPGA ボードを利用して周辺回路と組合せて、実装方法、RISC-V の利用方法などをメンバーへ展開する

RISC-V WG

1. 活動概要 (2025 年度の事業方針)

【背景】

- ・RISC-V はオープンかつロイヤリティフリーの ISA(命令セットアーキテクチャであり、組み込み機器では今後ますます重要性を増す認証やデータの安全性を担保するセキュリティ機能についても技術開発が進んでいることから、JASA として押さえておくべき重要技術の 1 つである。
- ・一方、実装にはノウハウが必要で、使いこなせるようになるにはノウハウの積み重ねが必要となる。
- ・20～23 年度に会員が自由に利用できる JASA 版 FPGA 用 RISC-V プラットフォームを開発し公開した。

【方針】

1. オープンな仕様で、会員及び業界が自由に活用できる RISC-V プラットフォームを会員の協力で開発する。
2. 外部関連団体との協創など、開発した RISC-V プラットフォームの普及活動を行い、応用範囲を広げる

3.上記活動を通して RISC-V コミュニティに貢献するとともに JASA のプレゼンス向上を図る。

・今までの FPGA に加え、SoC にて RISC-V プラットフォームを作り、会員が RISC-V を題材に SoC 開発可能 (=追試可能、カスタマイズ可能)な手順にまとめて Web 公開するとともに応用できる環境を整備する。

2. 達成目標 (完了条件)

- (1) 毎月定例会を開催し、会員または招聘者による講演、開発の進捗報告等で会員の RISC-V 理解を深める
 - ◇会員の RISC-V に関する発表の場を提供すると共に、会員相互のスキルアップを支援する
 - ◇会員参加に向けた RISC-V 著名人や有識者による Web セミナー、講演会を実施する (講演会の実施)
 - ◇会員に向けに活動成果を発信する (Web 公開、EdgeTech+West、EdgeTech+への出展等)
- (2) JASA 会員が自由に使えるように整備された RISC-V プラットフォームを実現する
 - ◇開発したプラットフォーム、及びドキュメント等の普及促進ツールを整備して活用促進を図る
 - ◇SoC 版にてロードマップに沿った整備を推進する (SoC 製作)
 - ◇会員に向けに追試可能な成果として発信する (Web 公開、EdgeTech+West、EdgeTech+への展示等)
 - ◇セキュリティ機能実装検討による IoT 組み込み機器向けデバイス認証・セキュリティ環境の構想をまとめる
- (3) RISC-V 協会、OpenSUSI、その他の外部 RISC-V 関連団体との連携活動を行う(1 つ以上の連携活動の実施)
 - ◇展示会で RISC-V 関連団体と連携して RISC-V コーナーを立ち上げ、展示を盛り上げる

3. 1 年目の目標

- ◆興味を持つ JASA 会員が RISC-V SoC による IoT エッジを開発できる環境の整備
 - ・JASA 版 RISC-V SoC 開発手順の調査と調査結果に基づく SoC 開発
 - ・上記の追試可能な形での手順まとめのコンテンツ化と Web 公開
 - ・SoC 評価環境の準備
 - ・EdgeTech+West、EdgeTech+等展示会への出展 (RISC-V 協会等、外部関連団体との協創を図る)

4. 各事業計画 (案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

- ・委員間での会合
- ・毎月定例会を開催する
- ・会員もしくは外部の RISC-V 有識者による勉強会を実施する

【事業No.2】RISC-V プラットフォーム整備

- ・JASA 版 RISC-V プラットフォームの整備と会員への成果公開
- ・JASA 会員、他の委員会、WG 等でも活用できるプラットフォームとしての整備
 - (1) JASA 版 RISC-V SoC (JASA チップ 1) 製作費(\$10,000)
 - (2) JASA チップ 1 評価ボード設計・製作・動作確認作業費
 - (3) 成果の Web コンテンツ化作業費
 - (4) JASA チップ 1 評価作業費

【事業No.3】外部団体との協創活動

- ・RISC-V 協会、その他の外部 RISC-V 関連団体との連携活動を行う
- ・WG の活動を RISC-V コミュニティで認知されたものにする
- ・JASA 会員が個別に外部団体に加入しなくても参加できるようにする
- ・RISC-V 協会と展示会出展や講演で協創する
- ・SoC 開発面で OpenSUSI, ISHI 会と協創する

【事業No.4】広報活動

- ・JASA の RISC-V に対する活動を広報する

- ・会員の RISC-V 理解を深める
- 【(メンバー・会員対象)Web セミナー開催】
- ・定例会(メンバー会議)のタイミングで年 6 回程度開催する
- ・会員または招聘者による講演、開発の進捗報告等で会員の RISC-V 理解を深める
- 【展示会出展】
- ・EdgeTech+West2025, EdgeTech+2025 への出展

ET 事業本部

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

JASA の基盤事業の役割を担い、成長性のある収益事業として発展させる

コロナ禍が終わり、よりリアルな出会いを創出する展示会の重要性を、顧客が再認識している。

しかし、AI など新技術の登場により、組込みソフト開発のプロセスに大きな変革が生じると予想されるため展示会を通じて、顧客に組込み業界の新たな未来を提示することで、JASA の強固な収益事業の役割を継続する。

<25 年度 ET 事業方針>

- ①満足度向上: 既存出展社の継続と新規出展社の獲得
新規分野の大ゴマ出展社の獲得、横浜市とのさらなるタイアップ、JASA 会員企業の参加促進
- ②認知度向上: 新規来場者の取り込
Automotive Software Expo :自動車業界の認知度を向上
- ③業界団体ならではの最新技術や企画、応用分野の取り込み
自動車関連団体:JAMBE、AUTOSAR、J-Auto ISAC などの連携を強化
- ④JASA および JASA 会員の事業および技術力の訴求
- ⑤ビジネス機会創出のための出展社支援強化

2. 達成目標(完了条件)

2024 年度と 2025 年度の具体的な数値として以下を設定する(NOM:ナノオプトメディアとも共有済)。

2025 年度売上(254,000,000 円)

2024 年度対比 108%の成長

⇒ JASA 業務提携費(100,000,000 円)

2026 年度売上(276,500,000 円)

2025 年度対比 109%の成長

⇒ JASA 業務提携費(100,000,000 円)

2027 年度売上(297,950,000 円)

2026 年度対比 108%の成長

⇒ JASA 業務提携費(100,000,000 円)

⇒ 26 年度終了時に再交渉

<現在の NOMとの契約>

売上2億までJASA業務提携費75M固定、以降増えた分を50:50分配。ただし1億(税抜)を上限とする。
対象はEdgeTech+横浜で、WESTは含まない。

<24年度の実績>

売上: 235,737,634円

JASA業務提携費: 92,868,819円

<NOMの申し入れ>

24年度でやっと黒字化できた。過去の赤字を回収するため、25年度、26年度は、JASA業務提携費の上限を 110,000,000円(税込)としてほしい。
26年度の実績で、27年度以降を再設定したい。

3.1 年目の目標

- ①満足度向上: 既存出展社の継続と新規出展社の獲得 (売上前年対比 108%)
新規分野の大ゴマ出展社の獲得、横浜市とのさらなるタイアップ、JASA 会員企業の参加促進
- ②認知度向上: 新規来場者の取り込 (自動車メーカー来場者 前年対比 110%)
Automotive Software Expo :自動車業界の認知度を向上
- ③業界団体ならではの最新技術や企画、応用分野の取り込み (新規業界団体: 前年対比+2 団体)
自動車関連団体:JAMBE、AUTOSAR、J-Auto ISAC などの連携を強化

- ④JASA および JASA 会員の事業および技術力の訴求（JASA 新規出展: 前年対比+3 社）
- ⑤ビジネス機会創出のための出展社支援強化（出展社アンケート:満足度の向上）

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

事業本部の運営全般

本部会、推進委員会、各 WG(展示会 WG、カンファレンス WG)の開催

【事業No.2】EdgeTech+West 2025@大阪

EdgeTech+West 2025 展示会実施に伴う運営委託費等

【事業No.3】EdgeTech+ 2025@横浜

EdgeTech+ 2025 展示会実施に伴う運営委託費、事業収入等

【事業No.4】CES2026 参加

EdgeTech+ 2026 企画・運営アイデアの獲得のための CES2026 参加

CES2026 参加に必要な旅費・経費等一式：3 名分

＜活動概要＞

①ET 運営 NOM も同行(費用は NOM が自己負担)

ET 事業本部+NOM が連携し、EdgeTech+の企画案創出を目指し
グローバルな視点で市場動向を調査

②会員企業へ CES 情報を発信し共有する

CES 視察レポートを参加メンバーが作成し、会員企業向けに情報を発信する
最新技術トレンド、展示内容の動画、組込み業界に与える影響の考察など

プラグフェスト実行委員会

1. 活動概要(2025 年度の事業方針)

Society 5.0 は、IoT で全ての人とモノが繋がり、情報共有が必要となるが、現在家電業界に於いて世界的に普及している HDMI も根本的な思想は同様で、同一のインターフェースで全ての機器が等しく繋がり、双方向で情報共有を行っている唯一の規格である。

日本プラグフェストは、この HDMI の相互接続検証を日本で実施することを基本とし、国内外の家電メーカーに対し接続検証の場を設け、技術的な課題の共有や品質の向上に努めている。

日本プラグフェストで培われた経験を活かし、Society 5.0 の実現に向け IoT で全ての人とモノが繋がるには何をすべきかを、JASA 会員企業の視点とは別の視点から考察することで課題を克服し易くし、新しい価値の創造を行えるようフィードバックを実施する。

また、日本プラグフェストで使用しているプラットフォームを流用し、Society 5.0 の実現に向けた実証実験や相互検証の場を提供することも検討する。

日本プラグフェスト参加の企業に対しては、JASA 会員企業の認知度の向上及び ET 展への周知や情報提供を行うことで、そのプレゼンスを上げていくことも目的とする。

2. 達成目標(完了条件)

年に 2 回、東京と近畿圏で定期的を開催することで、参加の可能性のある家電メーカーに対して信頼や安心感を獲得するとともに、参加者と技術動向の把握、定期的な情報交換を実施することで技術の進化に追従し、より良い技術交流の機会を提供し続けることが目標。

3. 1 年目の目標

HDMI2.1 で新しく定められたゲーム業界でいち早く搭載されている、新機能・項目の接続検証の場として、日本プラグフェストは、国内のゲーム機器メーカーをはじめアジア各国のディスプレイメーカー(韓国)およびデバイスメーカー(台湾)に参加を促す。

技術的に最高峰かつ最新の接続テストが実施出来るのは、日本プラグフェストであることを PR する。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】会議(委員会、WG会議)

実施計画策定のミーティングを実施

【事業No.2】日本プラグフェスト(春季)

HDMI 規格にて接続試験を実施

京都にて実施予定。

【事業No.3】日本プラグフェスト(秋季)

HDMI 規格にて接続試験を実施

都立産業技術研究センターにて開催予定

Ⅲ 支部計画

北海道支部

1. 活動概要(2025年度の事業方針:事業予算案)

交流会に参加する
支部会の開催
セミナー開催 ビジネス交流委員会と一緒に(予算は、ビジネス交流員会で計上)
交流会(食事会&ゴルフ会)

2. 達成目標(完了条件)

支部会員を2社増やす。
支部会を2ヶ月に一回行う。

3. 1年目の目標

4. 各事業計画(案)

- 【事業No.1】支部運営会議 支部会議
北海道支部の活性化及び会員増強の打合せ
HIS ホールディングス会議室にて、年度計画の打合せ及び懇親会を行う
- 【事業No.2】国内外視察調査
事業計画なし
- 【事業No.3】技術セミナー
事業計画なし
- 【事業No.4】その他セミナー
事業計画なし
- 【事業No.5】研究会
事業計画なし
- 【事業No.6】交流会
支部会員を増やす
支部会員を増やす為にJASAの活動を紹介するとともに交流を図る。
- 【事業No.7】EdgeTech+/EdgeTech+West/E T ロボコン等 イベント参加
ET ロボコンボランティア交流
参加会社との交流を図り会員への加入を目的とする

東北支部

1. 活動概要(2025年度の事業方針:事業予算案)

- 支部会員増を図る
 - ・岩手県・盛岡市と宮城県・仙台市でビジネス交流委員会との共同セミナー開催を契機に東北支部会員増と支部活動の活性化を図る
 - ・支部会員同士の交流および若者の交流を図り視野を広げるとともに、会員増の契機とする
- 支部会員へのサービス提供
 - ・支部会、セミナー開催により会員企業の事業発展に寄与する
 - ・国内視察(他支部とのコラボ)

- ・ EdgeTech+展期間内での交流会・勉強会の開催(例:最新のデバイスメーカーの動向等を知る)
- ・ EdgeTech+展へのサポート(地方パビリオンの推進)
(例) JASA 会員が共同研究先(大学等)と共に技術を広める場を提供したい

2. 達成目標(完了条件)

3.1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

- 【事業No.1】 支部運営会議 支部会議
東北支部事業の推進
会員企業の増
東北支部事業の事業遂行状況確認
技術セミナーを同日開催
- 【事業No.2】 国内外視察調査
会員企業が他社等を訪問することによる視野の拡大
組込み関連企業等への訪問
- 【事業No.3】 技術セミナー
会員企業にとり最先端の技術動向の提供を行い事業発展に貢献
IoT、AI 等に関するセミナー開催
(岩手県、盛岡市等の自治体(及びビジネス交流委員会)等との共同開催を予定)
支部会議との同日開催
- 【事業No.4】 その他セミナー
事業計画なし
- 【事業No.5】 研究会
事業計画なし
- 【事業No.6】 交流会
支部の交流、他団体との連携による支部活動の活性化
JASA ビジョン 2030 を受け、ビジネス交流委員会と東北支部との共催により
セミナー・交流会を開催する
- 【事業No.7】 EdgeTech+／EdgeTech+West／E T ロボコン等 イベント参加
事業計画なし

関東支部

1. 活動概要(2025 年度の事業方針:事業予算案)

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発
- ②協会本部を有する支部としての役割の再構築
- ③会員参加率を高めるためビジネスマッチング等の取組みを強化

2. 達成目標(完了条件)

JASA 活動への” のべ参加率” 100%、共に新入会員 5 社を達成目標とする。

3.1 年目の目標

JASA 活動への” のべ参加率” 100%、共に新入会員 5 社を達成目標とする。

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部企画運営、および支部会議運営推進

支部企画運営 WG(原則月例)、および支部会議(例会)開催

【事業No.2】 国内外視察調査

新規ビジネス検討、会員間相互交流の創出

国内外企業、学術団体等を視察調査し、新規ビジネス検討/会員間相互交流を創出

【事業No.3】 技術セミナー

事業計画なし

【事業No.4】 その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

本部及び本部事業および支部との連携による、関東支部会員向け情報提供、および会員間相互交流の創出

本部の各種委員会および本部事業、また他支部と連携し、JASA 活動状況を積極的に関東支部会員に提供すると共に会員間相互交流を創出
経営者の交流を創出

【事業No.7】 EdgeTech+／EdgeTech+West／E T ロボコン等 イベント参加

事業計画なし

中部支部

1. 活動概要(2025 年度の事業方針:事業予算案)

- ①本部及び本部事業との情報連携による、組込みシステム技術の普及啓発を行う。
- ②中部支部の特性を生かした事業を推進し、会員相互の親交の場を提供する。
- ③中部地域における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化を推進する。

2. 達成目標(完了条件)

会員増強 会員数 22 社

中部経産局との協業事業実施 ワークショップの実施

セミナーイベント参加人数の増加 前年比+20%

近隣大学との提携事業の実施 名古屋近隣大学とセミナー実施定例開催

ET 名古屋の開催

3.1 年目の目標

会員増強 17 社→18 社 中部支店のある会員企業に参加の働き掛け 1 社入会 計 18 社に

国内外視察の実施 国内外の事情を考慮し、本年は東北

近隣大学との連携 技術セミナー 2 回以上 マネージメントセミナー 1 回以上 各セミナー2 回ずつ実施

ET 名古屋の準備 会員企業や中部地区事業団体への周知及びセミナー講師の根回し、セミナーを対面で 4 回実施

交流会の充実 就職関連、新事務局による活動活性化、会員スタッフ部門の情報交換会実施

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

中部支部 2025 年度事業計画、事業予算、遂行計画の確認と
会員企業の経営者・幹部社員の情報交流
支部運営会議を 5 月と 12 月に実施し、事業案及び予算案の周知と会員の要望の確認
定例会を 4 回程度実施し、実施事業の内容決定や実績確認を行う

【事業No.2】 国内外視察調査

国内の情報産業の情報収集と地場大学・情報産業団体企業との交流
・国内の他地域の情報産業事情と協業の可能性を調査するとともに地場情報産業団体や企業との交流をする。
東北地方を検討する

【事業No.3】 技術セミナー

- ・今後発展しそうな組込みシステム技術の普及・啓発を図る
- ・地元大学・企業から先進的な指導者を招聘して年 2 回セミナー・講演会を開催し組込みシステム技術の普及・啓発を図る
- ・セキュリティ関連のセミナーを継続的に実施

【事業No.4】 その他セミナー

新時代を迎えるにあたり、今後のビジネスモデル、組織論や管理技術などを議論する場を提供する
・地元大学の経営学や管理技術の先生の協力を得て、上記目的を達成する講演を開催する

【事業No.5】 研究会

会員各社幹部向け経営勉強会の実施
デジタルトランスフォーメーションが本格的に波及する中、中部地区の主産業である車分野も EV 化や自動運転の推進など従来にはない方向を目指している
会員各社の経営幹部を対象として時代に合ったビジネスモデルにどのように考えるか、後継者問題など各会社の経営課題を、ケーススタディを基に勉強する。

【事業No.6】 交流会

就職情報に関する交換会を会員会社人事担当と近隣の学校とで実施する
会員企業と新事務局との情報交換
会員企業のスタッフ部門の情報交換
・会員各社の就職担当者と恰好関係の就職担当を一堂に会し、今年度の就職動向や来年度の様々な動向情報の交換と懇親会の実施
・新事務局と会員企業との情報交換
・会員各社のスタッフ部門の様々な情報交換を通じスタッフ同士の連携を深め、懇親会も実施する

近畿支部

1. 活動概要(2025 年度の事業方針:事業予算案)

2025 年は大阪・関西万博の開催を契機に社会全体が大きな変革を迎える年となることから、会員企業との連携を一層強化し、交流の活性化、ビジネスチャンスの拡大、そして万博との連携に加え、他団体との積極的な交流を通じて、地域経済の発展に貢献していく。

2. 達成目標(完了条件)

3.1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部事業計画に基づいた具体案の検討と本部・支部事業の連絡および報告、官公庁・関連団体との情報共有

4 月には前年度活動報告及び決算報告、新年度の活動計画及び予算案を確認する。また春セミナーの案内、WG 活動の報告会を行う。6 月は春セミナーの活動報告、EdgeTech+west の周知、近畿経済産業局との意見交換を行う。9 月には秋セミナーの案内、EdgeTech+の周知、国内視察の案内を行う。12 月には近畿経済産業局との意見交換、国内視察報告、他団体連携状況報告及び次年度事業検討、3 月は次年度予算と事業計画について確認し、近畿圏での活動報告会等を行う。

【事業No.2】 国内外視察調査

国内外の組込みシステム技術の調査、現地の経済情勢を視察

国内視察として地方の組込みシステム技術と地方情勢に関する調査及び意見交換を行い、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。これまで実施してきた海外視察は役目を終えたと判断し、今後は国際委員会に任せることにする。

【事業No.3】 技術セミナー

技術担当社員の情報収集、技術啓発

春季と秋季の 2 回、組込みシステム技術に関する先端の技術についてセミナーを実施し、技術担当社員の技術啓発や人材育成を行う。講師の支払報酬を負担し、企業の枠を超えた研修の場を提供する。

【事業No.4】 その他セミナー

総務・管理部門担当社員及び営業担当社員の人材育成

総務セミナーと営業セミナーはそれぞれ春季と秋季の 2 回、各方面から講師を招聘し、総務・管理部門担当社員及び営業担当社員を対象として実施する。講師の支払報酬を負担し、組込みシステムに特化した会員企業では比較的貧弱な分野である技術以外の分野へのスキルアップ、情報収集に役立てる。

【事業No.5】 研究会

【事業No.6】 交流会

会員企業社員相互の親睦や他団体との交流を図る

4 月には次世代の経営層を見据えた親睦会、9 月には納涼月見会を実施する。

また 12 月には忘年会、1 月には他団体と合同での賀詞交歓会を行う。

大阪万博を見据え官公庁及び関連団体との交流を密に情報収集し、また開催イベントに協賛して地域の活性化に寄与する。

【事業No.7】 EdgeTech+／EdgeTech+West／E T ロボコン等 イベント参加

支部会員の ET 出展を促進する

JASA ビジョン 2030 を見据え会員企業のビジネスマッチング推進として、7 月に予定されている EdgeTech+West への支部会員の出展を斡旋する。

九州支部

1. 活動概要(2025 年度の事業方針:事業予算案)

これまでの九州支部事業実績と「JASA ビジョン 2030」および「2022 年度 3 か年計画」を踏襲し、以下を遂行していく。

- (1) 九州地区の特性を活かした事業を推進し、会員企業への貢献と組込みシステム技術の普及啓発を行う。

- (2) 九州地区における官公庁及び関連機関との情報交流を行い、地域産業の活性化へ寄与する。
- (3) モノづくりフェアへ JASA 九州支部にて出展する。

2. 達成目標(完了条件)

3.1 年目の目標

4. 各事業計画(案)

【事業No.1】 支部運営会議 支部会議

支部事業の遂行状況確認、および関連機関や団体との情報交流。

半期ごとに年 4 回開催(5 月, 8 月, 11 月, 2 月)。

支部会員を始め、九州支部が会員となっている福岡市 IoT コンソーシアムや福岡エレコン交流会などの関連機関および地場の大学等々から来賓を招いて実施。

【事業No.2】 国内外視察調査

九州圏内の優良企業視察により、参加企業の交流を図る

九州圏内で参加企業を募集し、JASA 会員と参加企業のビジネスマッチングの場を提供する。

優良企業視察により、視察企業とのコネクションを図る。

【事業No.3】 技術セミナー

(ビジネス交流委員会)

支部と連携した情報発信と、JASA プレゼンス向上、会員獲得

交流委員会企画セミナー、JASA 活動紹介セミナー、九州支部企画セミナーの 3 本立てセミナーの開催。終了後、ネットワーキングパーティーを開催し、参加者間の交流、JASA 会員獲得を狙う。

【九州支部】

集客方法や予算軽減なども考慮して、「日刊工業新聞社」様主催の「モノづくりフェア」内での開催とする。

【事業No.4】 その他セミナー

事業計画なし

【事業No.5】 研究会

事業計画なし

【事業No.6】 交流会

事業計画なし。

【事業No.7】 モノづくりフェアへの出展

JASA の活動を九州の企業に PR するだけでなく、九州支部の会員企業のブランド認知を高め、商談を増やすことを目的として出展する

福岡市にて 10 月 15～17 日に行われる、モノづくりフェアへ JASA 九州支部として出展を行う。

九州支部の会員だけでなく、各本部、支部からの出展も募集する予定です。

Ⅳ 収支予算

2025年度予算

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

一般社団法人 組込みシステム技術協会
内訳書 全体

科 目	2024年度予算額	2024年度実績額 旧経費	2024年度実績額 旧経費	2025年度予算額	率	2025年度対予算差異	率	2025年度対実績差異	率	説 明
Ⅰ 一般正味財産増減の部										
1 経常増減の部										
(1) 経常収益										
特定資産運用益		8,347	8,347	0	0%	-8,347	0%			
特定資産受利息		8,347	8,347	0	0%	-8,347	0%			
受 取 会 費	39,000,000	39,902,666	39,902,666	40,870,000	102%	1,870,000	105%	967,334	102%	
正会員受取会費	35,000,000	35,982,666	35,982,666	36,650,000	103%	1,650,000	105%	667,334	102%	
賛助会員受取会費	4,000,000	3,920,000	3,920,000	4,220,000	98%	220,000	106%	300,000	108%	
事 業 収 益	176,983,544	168,370,739	168,370,739	198,950,590	95%	21,967,046	112%	30,579,851	118%	
書及啓発事業収益	123,500,000	135,479,350	135,479,350	143,320,000	110%	19,820,000	116%	7,840,650	106%	ET、ETロボコン
その他事業収益	53,483,544	32,891,389	32,891,389	55,630,590	61%	2,147,046	104%	22,739,201	169%	その他事業
受 取 補 助 金 等	0	266,356	266,356	0	0%	0	0%	-266,356	0%	
受取国庫補助金	0	266,356	266,356	0	0%	0	0%	-266,356	0%	
雑 収 入 息	630,000	585,338	585,338	630,000	93%	0	100%	44,662	108%	
受 取 利 息	0	346,338	346,338	0	0%	0	0%	-346,338	0%	定期預金
雑 収 益	630,000	239,000	239,000	630,000	38%	0	100%	391,000	264%	印税
経常収益計	216,613,544	209,133,446	209,133,446	240,450,590	97%	23,837,046	111%	31,317,144	115%	
(2) 経常費用										

科 目	2024年度予算額	2024年度実績額 旧経費	2024年度実績額 旧経費	2025年度予算額	率	2025年度対予算差異	率	2025年度対実績差異	率	説 明
役員報酬	113,285,708	76,712,944	115,281,425	126,550,471	68%	13,264,763	112%	49,837,527	165%	
給与手当	0	0	12,810,000	0	0%	0	0%	0	0%	
アルバイト料	0	0	14,318,374	0	0%	0	0%	0	0%	
派遣料	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%	
退職給付費用	0	0	3,650,368	0	0%	0	0%	0	0%	
退職金共済掛金	0	0	247,200	0	0%	0	0%	0	0%	
福利厚生費	0	0	3,990,823	0	0%	0	0%	0	0%	
出 向 料	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%	
会議費	6,840,500	3,146,691	3,146,691	6,584,500	46%	-256,000	96%	3,437,809	209%	
旅費交通費	17,744,900	5,675,598	5,675,598	15,292,400	32%	-2,452,500	86%	9,616,802	269%	
通信運搬費	1,666,500	840,256	1,237,662	1,525,500	50%	-141,000	92%	685,244	182%	
減価償却費	0	481,600	481,600	0	0%	0	0%	-481,600	0%	
消耗什器備品費	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%	
消耗品費	1,897,200	693,704	779,200	1,997,000	37%	99,800	105%	1,303,296	288%	
印刷製本費	3,214,750	2,879,213	2,940,568	3,483,750	90%	269,000	108%	604,537	121%	
賃 借 料	0	0	1,506,648	0	0%	0	0%	0	0%	
支払報酬	9,885,756	4,238,983	4,238,983	16,851,552	43%	6,965,796	170%	12,612,569	398%	
支払手数料	365,898	303,256	303,256	261,677	83%	-104,221	72%	-41,579	86%	
新聞図書費	65,000	38,462	38,462	166,000	59%	101,000	255%	127,538	432%	
水道光熱費	0	0	203,002	0	0%	0	0%	0	0%	
租 税 公 課	0	173,800	173,800	0	0%	0	0%	-173,800	0%	
会 合 費	15,682,300	8,179,332	8,179,332	17,529,500	52%	1,847,200	112%	9,350,168	214%	
E D P 費	149,400	39,201	1,337,010	172,188	26%	22,788	115%	132,987	439%	
業務委託費	51,826,504	49,836,121	49,836,121	57,778,504	96%	5,952,000	111%	7,942,383	116%	
広報費	1,181,000	158,733	158,733	3,067,000	13%	1,886,000	260%	2,908,267	1932%	
諸 会 費	110,000	0	0	0	0%	-110,000	0%	0	0%	
保険料	0	20,950	20,950	0	0%	0	0%	-20,950	0%	
支払寄付金	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%	
雑 費	2,656,000	7,044	7,044	1,840,900	0%	-815,100	69%	1,833,856	26134%	

科 目	2024年度予算額	2024年度実績額 旧経費	2024年度実績額 旧経費	2025年度予算額	率	2025年度対予算差異	率	2025年度対実績差異	率	説 明
管 理 費	103,327,836	102,848,742	64,280,261	108,900,119	100%	5,572,283	105%	6,051,377	106%	
役員報酬	22,200,000	22,200,000	9,390,000	22,200,000	100%	0	100%	0	100%	
給与手当	28,700,500	28,275,348	13,956,974	28,890,000	99%	189,500	101%	614,652	102%	
派遣料	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%	
退職給付費用	5,586,998	5,344,529	1,694,161	4,111,988	96%	-1,475,010	74%	-1,232,541	77%	
退職金共済掛金	600,000	480,000	232,800	600,000	80%	0	100%	120,000	125%	
福利厚生費	7,405,784	8,382,413	4,391,590	7,778,442	113%	372,658	105%	-603,971	93%	
会議費	4,202,000	1,311,803	1,311,803	3,742,000	31%	-460,000	89%	2,430,197	285%	
旅費交通費	1,390,800	1,806,579	1,806,579	1,821,120	130%	430,320	131%	14,541	101%	
通信運搬費	1,579,520	1,002,913	605,507	1,549,520	63%	-30,000	98%	546,607	155%	
減価償却費	550,000	949,559	949,559	842,225	173%	292,225	153%	-107,334	89%	
消耗什器備品費	0	0	0	0	0%	0	0%	0	0%	
消耗品費	660,000	215,760	130,264	1,010,000	33%	350,000	153%	794,240	468%	
印刷製本費	784,208	154,825	93,470	812,629	20%	28,421	104%	657,804	525%	
賃 借 料	9,030,384	9,030,384	7,523,736	9,030,384	100%	0	100%	0	100%	
支払報酬	7,356,240	7,410,634	7,410,634	7,813,320	101%	457,080	106%	402,686	105%	
支払手数料	174,420	200,728	200,728	174,420	115%	0	100%	-26,308	87%	
新聞図書費	100,000	83,016	83,016	150,000	83%	50,000	150%	66,984	181%	
水道光熱費	600,000	512,306	309,304	600,000	85%	0	100%	87,694	117%	
租 税 公 課	5,210,000	8,136,300	8,136,300	7,300,000	156%	2,090,000	140%	-836,300	90%	
会 合 費	1,012,000	1,334,260	1,334,260	1,192,000	132%	180,000	118%	-142,260	89%	
E D P 費	3,079,016	3,275,237	1,977,428	2,958,358	106%	-120,658	96%	-316,879	90%	
業務委託費	572,000	462,000	462,000	572,000	81%	0	100%	110,000	124%	
広報費	100,000	10,000	10,000	100,000	10%	0	100%	90,000	1000%	
諸 会 費	2,000,000	1,969,375	1,969,375	2,000,000	98%	0	100%	30,625	102%	
保険料	313,200	237,928	237,928	313,200	76%	0	100%	75,272	132%	
賃 借 料	7,000	0	0	7,000	0%	0	100%	7,000	0%	
賃借引当金繰入	113,766	62,845	62,845	3,331,514	55%	3,217,748	2928%	3,268,669	5301%	
雑 費	216,613,544	179,561,686	179,561,686	235,450,590	83%	18,837,046	109%	55,888,904	131%	

経常費用計	216,613,544	179,561,686	179,561,686	235,450,590	83%	18,837,046	109%	55,888,904	131%	
評価損益調整前当期増減額	0	29,571,760	29,571,760	5,000,000		5,000,000		-24,571,760	17%	
評価損益等計										
当期経常増減額	0	29,571,760	29,571,760	5,000,000		5,000,000		-24,571,760	17%	
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益	0	0	0	0		0		0		
経常外収益計	0	0	0	0		0		0		
(2) 経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0		0		0		
当期経常外増減額	0	0	0	0		0		0		
税引前一般正味財産増減額	0	29,571,760	29,571,760	5,000,000		5,000,000		-24,571,760	17%	
法人住民事業税	10,000,000	13,806,808	13,806,808	10,000,000	138%	0	100%	-3,806,808	72%	
当期一般正味財産増減額	-10,000,000	15,764,952	15,764,952	-5,000,000	-158%	5,000,000	50%	-20,764,952	-32%	
一般正味財産期首残高	243,510,328	243,510,328	243,510,328	259,275,280	100%	15,764,952	106%	15,764,952	106%	
一般正味財産期末残高	233,510,328	259,275,280	259,275,280	254,275,280	111%	20,764,952	109%	-5,000,000	98%	
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
当期指定正味財産増減額										
指定正味財産期首残高										
指定正味財産期末残高										
Ⅲ 正味財産期末残高	233,510,328	259,275,280	259,275,280	254,275,280	111%	20,764,952	109%	-5,000,000	98%	

2025年度予算

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位：千円)

事業推進本部	収入						支出								収支						説明
	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	2025年度予算前回	差	率予算	率実績	2024年度修正予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	
	1,790	614	34%	1,100	61%	179%	8,402	6,090	72%	7,827	7,827		93%	129%	-6,612	-5,476	83%	-6,727	102%	123%	
事業推進本部							132	164	124%	249	249		189%	152%	-132	-164	124%	-249	189%	152%	
広報委員会	100		0%		0%		6,447	4,386	68%	6,427	6,427		100%	147%	-6,347	-4,386	69%	-6,427	101%	147%	
政策提案委員会							55	207	376%	55	55		100%	27%	-55	-207	376%	-55	100%	27%	
経営者サミット委員会	1,690	614	36%	1,100	65%	179%	1,767	1,333	75%	1,095	1,095		62%	82%	-77	-719	929%	5	-6%	-1%	

2. 交流推進本部		2,037	1,157	57%	1,941	95%	168%	9,718	6,156	63%	8,854	10,000	-1,146	91%	144%	-7,681	-4,999	65%	-6,913	90%	138%	
国際交流委員会			40				0%	1,953	1,507	77%	2,103	2,103		108%	140%	-1,953	-1,467	75%	-2,103	108%	143%	
ビジネス交流委員会		342	244	71%	246	72%	101%	4,439	2,864	65%	3,402	4,549	-1,146	77%	119%	-4,097	-2,620	64%	-3,156	77%	120%	
人財交流委員会		1,695	873	51%	1,695	100%	194%	3,327	1,786	54%	3,348	3,348		101%	187%	-1,632	-913	56%	-1,653	101%	181%	

3. 人材育成事業本部		58,617	57,781	99%	62,140	106%	108%	51,120	47,458	93%	54,938	54,375	563	107%	116%	7,497	10,323	138%	7,201	96%	70%	
ETEC事業推進委員会		18,480	18,471	100%	18,610	101%	101%	11,700	7,020	60%	11,488	11,488		98%	164%	6,780	11,451	169%	7,122	105%	62%	
教育研修コンテンツ事業推進委員会		2,338	1,430	61%	1,975	84%	138%	1,812	1,145	63%	1,445	1,445		80%	126%	525	285	54%	529	101%	186%	
外国人技術者教育研修WG		3,800		0%	1,350	36%		3,408	233	7%	1,595	1,595		47%	685%	392	-233	-59%	-245	-63%	105%	
ET技術者教育委員会		30,000	33,324	111%	33,320	111%	100%	30,200	33,487	111%	33,520	33,520		111%	100%	-200	-163	82%	-200	100%	123%	
JASAIノベーションチャレンジ実行委員会		4,000	4,290	107%	6,885	172%	160%	4,000	5,185	130%	6,890	6,327	563	172%	133%		-895		-5		1%	
人材育成事業本部（スリランカ、高齢者）			266				0%		388					0%			-122				0%	

4. 技術本部		3,793	84	2%	10,863	286%	12932%	16,003	3,869	24%	23,130	23,130		145%	598%	-12,210	-3,785	31%	-12,267	100%	324%	
技術本部		225		0%	225	100%		4,169	765	18%	3,337	3,337		80%	436%	-3,944	-765	19%	-3,112	79%	407%	
安全性向上委員会		668	84	13%	608	91%	724%	1,466	448	31%	1,400	1,400		95%	313%	-798	-364	46%	-792	99%	218%	
組込みシステムセキュリティ委員会		2,720		0%	9,830	361%		3,610	10	0%	10,290	10,290		285%	103179%	-890	-10	1%	-460	52%	4612%	
コモングラウンド委員会	コモングラウンド委員会							834	499	60%	979	979		117%	196%	-834	-499	60%	-979	117%	196%	
	スマートライフWG							215	89	41%	248	248		115%	278%	-215	-89	41%	-248	115%	278%	
応用技術調査委員会	OSS活用WG							224	47	21%	359	359		160%	759%	-224	-47	21%	-359	160%	759%	
	アジャイルWG	40		0%	40	100%		182		0%	182	182		100%		-142		0%	-142	100%		
	AI研究WG	40		0%	40	100%		90	1	1%	90	90		100%	6818%	-50	-1	3%	-50	100%	3788%	
プラットフォーム構築委員会	OpenELWG							236	227	96%	704	704		299%	310%	-236	-227	96%	-704	299%	310%	
	組込みDevOpsプラットフォームWG								4						0%		-4				0%	
	vSim活用WG（仮称）	100		0%	120	120%		770	112	14%	800	800		104%	717%	-670	-112	17%	-680	101%	610%	
ハードウェア委員会	RISC-VWG							4,137	1,666	40%	4,663	4,663		113%	280%	-4,137	-1,666	40%	-4,663	113%	280%	
	デバイスWG							70	1	1%	77	77		110%	7375%	-70	-1	1%	-77	110%	7375%	

		収入						支出							収支						説明	
		2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	2025年度予算前回	差	率予算	率実績	2024年度修正予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算		率実績
ET事業本部		100,500	102,156	102%	110,000	109%	108%	8,415	1,674	20%	2,915	2,915		35%	174%	92,085	100,481	109%	107,085	116%	107%	
ET展示会事業運営委員会		100,500	102,156	102%	110,000	109%	108%	8,415	1,674	20%	2,915	2,915		35%	174%	92,085	100,481	109%	107,085	116%	107%	

事業本部合計		166,737	161,791	97%	186,044	112%	115%	93,658	65,247	70%	97,663	98,247	-583	104%	150%	73,079	96,544	132%	88,380	121%	92%	
--------	--	---------	---------	-----	---------	------	------	--------	--------	-----	--------	--------	------	------	------	--------	--------	------	--------	------	-----	--

2025年度予算

2025年4月1日から2026年3月31日まで

(単位：千円)

6. 支部

支部		収入						支出								収支						説明
		2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	2025年度予算前回	差	率予算	率実績	2024年度修正予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	
		6,432	3,571	56%	8,977	140%	251%	13,584	7,632	56%	16,665	16,551	114	123%	218%	-7,153	-4,062	57%	-7,688	107%	189%	
北海道支部		88		0%	88	100%		141	20	15%	141	141		100%	688%	-54	-20	38%	-54	100%	261%	
東北支部		145	40	28%	223	153%	556%	598	158	26%	941	941		157%	596%	-453	-118	26%	-718	158%	610%	
関東支部		1,320	1,394	106%	2,727	207%	196%	3,570	3,232	91%	5,888	5,888		165%	182%	-2,250	-1,838	82%	-3,161	141%	172%	
中部支部		1,771	712	40%	986	56%	139%	2,994	1,402	47%	1,934	1,985	-51	65%	138%	-1,223	-690	56%	-948	78%	137%	
北陸支部								586	78	13%				0%	0%	-586	-78	13%		0%	0%	
近畿支部		2,796	1,357	49%	2,796	100%	206%	5,145	2,644	51%	5,141	5,141		100%	194%	-2,349	-1,287	55%	-2,345	100%	182%	
九州支部		312	68	22%	2,158	692%	3174%	550	99	18%	2,620	2,455	165	476%	2657%	-238	-31	13%	-462	194%	1509%	

7. 本部

本部	収入						支出								収支						説明
	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	2025年度予算前回	差	率予算	率実績	2024年度修正予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	
	43,445	43,772	101%	45,430	105%	104%	109,371	106,682	98%	121,122	117,825	3,297	111%	114%	-65,926	-62,910	95%	-75,692	115%	120%	
本部管理費・その他事業	40,990	41,814	102%	42,860	105%	103%	106,961	104,887	98%	111,863	108,566	3,297	105%	107%	-65,971	-63,074	96%	-69,003	105%	109%	
プラグフェスト実行委員会	2,455	1,958	80%	2,570	105%	131%	2,410	1,795	74%	2,459	2,459		102%	137%	45	163	366%	111	248%	68%	
JASA改革プロジェクト										6,800	6,800							-6,800			

8. 経常収支

経常収支	収入						支出								収支						説明
	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	2025年度予算前年	差	率予算	率実績	2024年度修正予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	
経常収支	216, 614	209, 133	97%	240, 451	111%	115%	216, 614	179, 562	83%	235, 451	232, 623	2, 828	109%	131%		29, 572		5, 000		17%	

9. 経常外収支

経常外収支	収入						支出								収支						説明
	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	2025年度予算前週	差	率予算	率実績	2024年度修正予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	
経常外経常収支							10,000	13,807	138%	10,000	10,000		100%	72%	-10,000	-13,807	138%	-10,000	100%	72%	

10. 当期正味財産増減額

D. 当期正味財産増減額	収入						支出								収支						説明
	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	2024年度予算	2024年度実績	率	2025年度予算	2025年度予算前回	差	率予算	率実績	2024年度修正予算	2024年度実績	率	2025年度予算	率予算	率実績	
当期正味財産増減額	216,614	209,133	97%	240,451	111%	115%	226,614	193,368	85%	245,451	242,623	2,828	108%	127%	-10,000	15,765	-158%	-5,000	50%	-32%	